



7月5日に給食の様子取材を受けました。さっそくテレビ放送もありましたし、町の広報の方も見えていましたので、広報に載るかもしれません。

「学校運営協議会」が 開かれました

6月10日に学校運営協議会の1回目の会合がもたれました。PTA、教育振興実践区、各町内会、民生委員さんなどの地域の方、15人に集まっていただきました。本校はもともと、地域とのつながりが強く支えていただいていますので、今後は、さらに、ご意見をいただいたり分担して助けていただいたりして、よりよい「地域の学校」にしていきたいと考えています。

今回、話題になったこと

(1) 他の地域の学校運営協議会を視察したらよいのではないか。

「学校運営協議会」と言われても、地域ではまだなじみがなく、どういうことをすればよいのかというイメージが持てないのではないか。初年度の今年度こそ視察が必要ではないか。

⇒学校運営協議会の意義を確認したり今後の活動を見通したりするためにも、視察が可能かどうか探ってみることにします。

(2) 行事での来賓の数を検討する時期ではないか。

学校統合を経過してくるなかで、行事へ招待される来賓が多いままになっていないか。招待されるのはうれしいが、同じ地区から何人も参加している状況もあるので、見直してもよいのではないか。

⇒今後、検討します。

(3) 学校での「働き方改革」はどのように進めているのか。

先生方の働き方改革のことをニュースなどで聞くが、種小の先生方の働き方改革の状況はどうか。

⇒先生達は「子どものために」とがんばっていますが、一方でほぼ毎日、午後4時ごろまで授業があり、そのあとの、次の日の準備、テストや日記などのまるつけ、休んだ子やトラブルがあった子のおうちへの連絡、・・・となると、時間内に終わられないことが多いのも現実です。特に、おうちへの連絡は、学校の電話を使うことを基本としていることやおうちの方のご都合を考えてお仕事が終わった頃を見計らった電話になることから、遅くなるのが実情であります。教職員自身が仕事の効率化を図ると同時に、「夕方は学校の電話が混み合って通じにくい」というご指摘もいただいているので、施設面での改善ができないか町教委さんとも相談しながら進めていきます。

コミュニティスクールと 学校運営協議会

これからの学校は、保護者や地域の方々の願いやご意見を反映させていくと同時に、支援や協力もいただいて、学校運営を進めていこうという考えに立っているのが「コミュニティスクール」です。これまでも保護者・地域との連携に努めてきたわけですが、なお一層信頼関係を強化し、地域も当事者として学校運営の改善や子ども達の育成に積極的に関わっていこうという考え方です。

このような考え方に立って、学校運営について話し合う場が「学校運営協議会」です。昨年度までの「地域教育協議会」の組織構成を参考にしながら、「教育振興実践区」の活動、「支援する会」、「保育園・小学校・中学校連携」、「学童等との連携」など、これまで行われてきた活動との連携をはかり、子どもの育成の“推進役”を担います。

急なお願いにも関わらず

雷で下校待機の7/4

7月4日（月）は、低学年の下校時刻が近づいたころから大雨が降り雷も鳴り始めました。「このまま下校させるわけにはいかない。」と、学校への迎えと「バス通」のおうちにはバス停までの迎えを急遽お願いしました。迎えに来られたおうちの方に「急なことで迷惑をおかけしています。」とお声がけすると「いいえ、いいえ。かえってご苦労さまです。」とか「子どものためですから。」というお返事が返ってきます。迷いながらの判断でしたが、1つもお叱りを受けることもなくご協力くださるおうちの方々に感謝です。

今回、学校で気にかけたことは

○お仕事場によっては、ケイタイを見られない場合もあるでしょう。また、メールをいつもいつも見ているわけではないので気がつかないおうちもあるでしょう。それでもメール連絡を使うかどうか。

- ・「**子どもの安全を第一**」に考えると迎えに来ていただいて帰すしかありませんでした。
- ・急いで一斉に連絡する方法はメールでした。「**もしも、メール連絡を見ていただけなくて迎えが間に合わない場合は、連絡がつくまで学校でそのまま預かることにしよう。**」と考えました。

○スクールバスで帰しても、バスへの迎えが間に合うだろうか。

- ・バスの場合、**安全のためにバス停まで迎えていただくことが基本**になっています。「迎えにきていただくことになっているはず」でも、万が一、迎えが遅れたりすれ違ったりすれば安全が心配です。今回は、**職員が同乗**しバス停に迎えが間に合っているかどうかを確認することにしました。**もしも間に合わないおうちの子は、バスで再度学校に戻ってくる**ことにしました。仮に、おうちの迎えと行き違いになったら、「**子どもだけをバス停に残しておくわけにはいかなかった**」とお話すれば分かっていただけではないか。」と考えました。

○雨が弱まってきました。「迎えがなくても帰れるのではないか。」というおうちがあるかも。

- ・「**大丈夫かもしれない**」ではなく、またあとで振り返って「**大丈夫だったね。**」となってもよいから安全第一でいこうと考え、迎えのお願いを継続しました。また、迎えが来始めてからの変更ではかえって混乱することも心配されました。

さらに、徒歩で移動しているドリームキャンパスの子ども達についてドリームさんと連絡をとったり、海の子フェローズの練習の有無やプラスの練習、・・・とさまざまな連絡をしながら、子ども達を全員無事に下校させることができました。雨の中の迎えを大変ありがとうございました。

また、スクールバスも、どのおうちの迎えも間に合ったようで、バスに乗って戻ってくる子はいませんでした。バス停への迎えも大変ありがとうございました。

今後もしっかりお願いいたします。

- ・通常、日中のメール連絡は、**できるだけ昼休み時間**に送信するようにしていますが、今回のように**急遽連絡**しなければならないことや**前もって連絡することができない**場合もあることにご理解をお願いいたします。
- ・また、悪天候の場合でも、スクールバスでの下校は原則「通常どおり」行いますので、**バス停への迎え**をよろしくお願いいたします。（今後は、職員が同乗することができないことの方が多いと考えられます。）